

1 機械本体の標準データ

1-1 機械の標準仕様

項目		単位	VARIAXIS 500-5X II	
能力容量	最大ワーク寸法	径	φ500	
		高さ	405	
	X 軸移動量(サドル左右)		mm	510
	Y 軸移動量(コラム前後)		mm	510
	Z 軸移動量(ヘッド上下)		mm	460
	A 軸移動量(テーブルチルト) / 0.001 度割り出し		—	-120° ~ +30°
	C 軸移動量(テーブル回転) / 0.001 度割り出し		—	±360°
	主軸端面からテーブル上面までの距離 テーブル水平		mm	190 ~ 650
	主軸端面からテーブル中心までの距離 テーブル垂直		mm	140 ~ 600
テーブル積載荷重(等分布)		kg	300	
主軸	主軸テーパ穴		—	7/24 テーパ No. 40
	標準仕様 12000 min ⁻¹	主軸回転速度	min ⁻¹	35 ~ 12000
		主軸変速レンジ	—	1 段
		主軸軸受内径	mm	80
	主電動機 (ACインバータモータ)	kW	15 分定格: 22 連続定格: 15	
送り速度	早送り速度	X/Y/Z	m/min	52
	切削送り速度	X/Y/Z	m/min	52
	同時制御軸		—	同時 5 軸
	割出位置決め 時間	A	—	1.9 s/90°
C		—	1.5 s/90°, 2.1 s/180°	
テーブル	テーブルの寸法		mm	φ500 × 400 巾
	テーブル上面 (T 溝 + 基準穴)	呼び寸法	mm	(ISO R299) 18
		本数	本	5
		間隔	mm	80
		基準穴	mm	φ50 ^{+0.016} ₀
テーブル上面の高さ(機械底面から)		mm	800	
ATC ツール マガジン	工具収納本数	標準	本	30
		オプション	本	40/60/80/120/160 (注意 2)
	工具選択方式		—	番地固定自動近回り方式
	ツールシャンク型式		—	MAS BT40 または CAT No. 40
	プルスタッド型式		—	ヤマザキ ANSI タイプ
	工具最大径	条件なし	mm	φ80
		隣接工具なしの場合	mm	φ125
	工具最大長さ(テーパ基準面から)		mm	300
	チップ・ツー・チップ 時間(MAS 規格)	工具質量 8 kg 未満	s	4.5
	マガジン全体の 最大収納質量	30 本	kg	170 (平均 5.7 × 30 本)
40 本		kg	230 (平均 5.8 × 40 本)	
60 本		kg	350 (平均 5.8 × 60 本)	

項目		単位	VARIAXIS 500-5X II	
タンク容量	潤滑油タンク容量 (摺動面、主軸軸受潤滑)	L	3	
	主軸冷却油タンク容量	L	38	
	クーラントタンク容量	L	300	
精度	位置決め精度 (ピッチ補正使用)	X, Y, Z	μm	±2.5
		A	s	±10
		C	s	±5
	繰り返し位置決め精度	X, Y, Z	μm	±0.7
		A	s	±5
		C	s	±3
機械の 大きさ	所要床面積 (チップコンベア無)	高さ(フロア上面から)	mm	2838
		幅	mm	2805
		奥行き	mm	2950
	機械質量(標準仕様)	kg	7500	
電源	電圧(3相)	仕向地別	V	AC 200/220/230/240 ± 10%
				AC 380/400/415/440/460/480 ± 10%
	周波数		—	50/60 Hz ± 1 Hz
	電源容量 (標準仕様)	30分定格	kVA	45.91
連続定格		36.11		
エア源	圧力	MPa	0.5 以上 0.9 以下	
	容量(標準仕様)	L/min (ANR)	200 (注意 3)	
騒音	オペレータドア前で測定 (本機正面から 1 m、高さ 1.6 m の位置) 主軸回転数 12000 min ⁻¹	dBA	78	

露点温度: -17°C 以下(大気圧)

注意 1: 本説明書で示されている数値と機械に取り付けてある銘板の数値が異なるときは、銘板の数値を使用してください。

注意 2: 80/120/160 本マガジンの詳細は、別途打ち合わせが必要です。

注意 3: エア源は、水分、オイルミストの少ない清潔なものを使用してください。

また、コンプレッサから直接、短い配管で本機にエアを取り入れることは避けてください。高温なエアが本機内で冷却されることで、水分やオイル分が凝結し、バルブや配管を詰まらせたり、さびの発生原因となるばかりか、主軸ベアリングの焼き付きの原因にもつながります。多量の水分を含むエアや高温のエアの場合には、エアドライヤなどの補助機器を使用してください。



警告

- 仕様を超える工具やインサートを絶対に使用してはいけません。さもないと重大事故につながるおそれがあります。オペレータドアの窓は、主軸が最高速度で回転中に最大径の工具の外周に取り付けられたインサートが遠心力または何らかの外力で外れて放出されたときのエネルギーに対して安全が確保できる強度になっています。